

地区防災訓練＋避難訓練

先週の木曜日に、浅江地区の防災訓練が実施されました。それに合わせて、中学校では、1次避難、2次避難、3次避難を実施しました。今回の災害の想定は、南海トラフで巨大地震が発生し、緊急地震速報が入ったという想定です。具体的には、緊急地震速報30秒後に震度5以上の揺れが起こり、その後、津波が襲来するという想定です。地震から身を守る行動として、1次・2次避難を実施し、津波から身を守る行動として、3次避難を実施しました。

1次避難: その場で頭部等を保護し、安全を確保する。

2次避難: 校舎から出て、浅江中グラウンドに集まり、安全を確保する。

3次避難: 浅江小グラウンド(高台)に移動し、安全を確保する。

実際の訓練では、1次～3次避難まで、常に無言かつ迅速に避難を行うことができました。避難に要した時間は、

2次避難(教室→浅江中グラウンド) 4分58秒

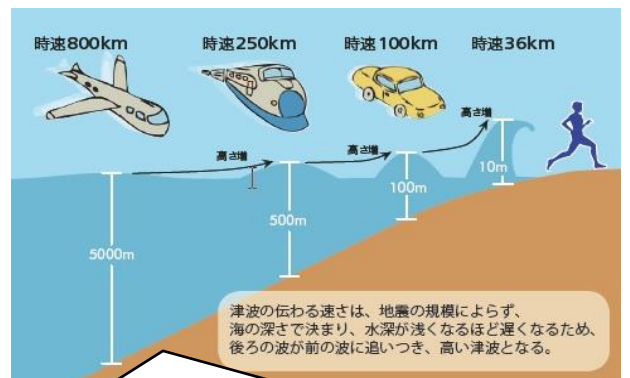
3次避難(教室→浅江小グラウンド) 19分5秒

です。

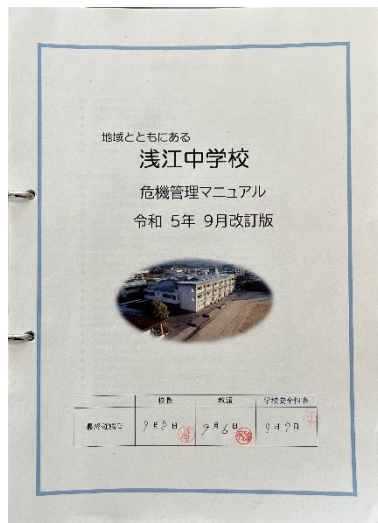
浅江中は、海拔4.3mのところにあるため、津波が発生すると、被害を受ける可能性があります。そのため、浅江小への避難は、非常に重要な対応となります。全校生徒が浅江小に移動するには、道路の横断や狭い道の移動など、短時間で移動するにはいくつかの課題がありますが、訓練を繰り返す中で、少しでも安全に、より早く避難できるようにしていきたいと思っています。



浅江中の正門



内閣府「防災情報のページ」より
https://www.bousai.go.jp/kohou/kouhoubousai/h22/05/special_01.html



浅江中では、左写真にあるような「危機管理マニュアル」を作成しています。さまざまな災害や事件・事故等にどのように対応するか……減災、未然防止をどうするか等について、全88ページにまとめています。いざというときに落ち着いて、迅速かつ確実な対応ができるよう、今後も訓練等を実施していきたいと思っています。

<おまけの情報> ～津波の伝わる速さについて～

右上の図の通り、津波が伝わる速さは、海の深さで変化します。なんと、沖合では、時速800km(飛行機の速さ)で伝わります。海岸付近では、その速さは遅くなるものの、時速36kmです。中学校前の道路を通過する車の速さぐらいです。人類最速と言われるウサイン・ボルトの走る速さが時速37.6kmなので、私達が津波襲来を目で確認してから急いで走って逃げても、確実に追いつかれてしまうということです。